



「不屈」NO.599 付録
石川版 NO. 356
2024年5月15日
治安維持法犠牲者国家賠償
要求同盟石川県本部
〒920-0856
石川県金沢市昭和町 5-13
石川県平和と労働会館 2F
国民救援会石川県本部 気付
TEL・FAX 076-262-3447

いまにつながる 治安維持法体制に決着を！

「平和国家」投げ捨てる自民党政治は終わらせましょう！

石川県本部会長 尾西洋子

岸田内閣は、歴代政府が武器輸出3原則を表明してきた「国是」を投げ捨て、殺傷兵器の輸出解禁を閣議決定した。

過去最大の8兆円に迫る軍事費・次期戦闘機輸出の閣議決定・沖縄南西諸島の軍事要塞化決定・「死の商人国家」は許されません。

一方で能登半島地震から4か月たった今も道路の陥没や崩壊が発生したまま。災害時に避難できない志賀原発は廃炉しありません。

「県や国は本気でやっつけてない」全国からのボランティアの声です。

1925年4月22日、治安維持法が公布されて99年目の日本で、再び戦争と暗黒政治を許しません。戦前の治安維持法は

間違っていたことを国は認めよと、国会請願も行っています。4月から6月、2万人会員を目指しています。あなたも国賠同盟に入会を、とすすめています。自民党政治を終わらせる国民的大運動を石川から、能登から声を上げましょう。



私たちの運動の基本

ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

1. 治安維持法体制の復活に反対する
2. 国は戦前の治安維持法が人道に反する悪法であったことを認めること
3. 国は治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償をおこなうこと

国会請願署名 (6/1~)

2024年5月5日現在
 個人署名 目標 3000筆
 到達 503筆
 団体署名 目標 250筆
 到達 12筆

会員数 (5月1日現在)

216名 (入2・退1)

能登半島地震から100日たったが

小崎香代子（2024年3月15日記）

輪島市尾大沢町（金沢市高尾台3-52-1松本宅）

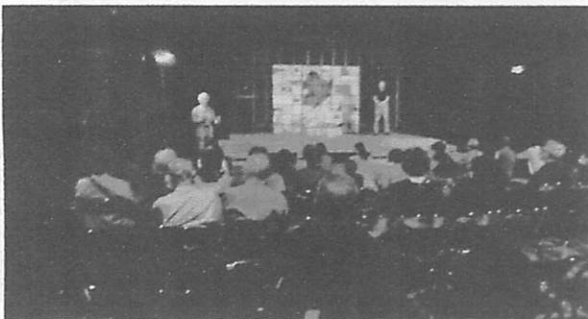
道路の崩壊で自治体の定めた隣町の避難所へ行けず、地区の公民館を第1次避難所として開設したのは大津波警報が注意報になった1月2日。住民は帰省客を含めて200人。困ったのは水道が出ないことと、停電。近くの山水を運んで、トイレや炊き出しに使った。

固定電話やスマホ、テレビでも情報を得られず、車のラジオで朝市の大火を知る。まさに「陸の孤島」「情報難民」となる。救援物資が届かないので、各々の家から寝具や米、野菜、正月用食材を持ち寄り炊き出しを始めた。食料が乏しくなり、2食の炊き出しを1食にした5日、ヘリが水とカップ麺を運んできた。その後、衛生用品や毛布も届けられた。

好運だったのは、地区で死者や怪我人が出なかったこと。海岸線が隆起し津波の被害が無かったこと。正月で若者が多くいたこと。おかげで、瓦礫を撤去し消防車の発電機を動かす、スマホの充電ができた。2槽式洗濯機を動かしたりできた。若手の看護師が血圧測定をしたり、服用している薬の手配をしたり。夜間の見回りや灯油の継ぎ足し等に活躍した。

11日、「全員避難」という市の方針が発表され、完了したのは14日。山代温泉の第2次避難所は、家族毎の暖かい個室に3食付き、やさしい待遇で心身ともに慰められた。しかし、地区や家の様子がわからず、車（80台以上）も残してきたので、帰省していた子らは仕事に支障が生じ、住民も

ひとり芝居「悔悟の記録」(4月28日・芸術村)



足がなく閉じこもりがちに。日中何もすることのない空白の時間も辛い。道の復旧について問い合わせても、県も市も「不明」という答えで腹立たしかったが、3月1日細い林道が通り、車を出したり家の様子を見ることができた。

約100日が経った現在、大沢の住民は第2次避難所に残っている人、みなし仮設に移った人、水なし電気なしの自宅へ帰った人とに分かれた。大沢に帰りたいが、確実な道路と水道と電気の復旧が待たれる。家の修理費に悩む。

能登半島地震のなか、全国からの 激励に応じて奥能登支部は前進する

同盟石川県奥能登支部副支部長 坂東 正幸

石川県での「映画千代子」の上映運動は、2022年5月28日の金沢での試写会をはじめに、全県下14会場で延べ19回の上映を行いました。1,097名の方々に映画鑑賞いただきました。

奥能登地域でも民医連輪島診療所を会場に、2022年10月29日に上映会が開催され、70名を超える方々に鑑賞していただきました。「伊藤千代子を初めて知った。今を生きる私たちを励ましてくれてる」など感想文が多数寄せられました。会場で配布した国賠同盟加入申込書で当日に新しく加入された珠洲市の会員があり、映画鑑賞者名簿から国賠同盟への加入を働きかけ、輪島0→2名、珠洲0→2名、輪島市門前地区2→3名へと会員を増やしました。

輪島市門前地区の古くからの会員、藤井秀信さんは、「奥能登地域でも支部を結成する」と発起され、2023年8月23日、門前地区赤神の民宿「はまなす」で準備会を開催しました。

奥能登支部結成会は、10月8日、準備会を行った「はまなす」で開催されましたが、珠洲の会員の娘さんも参加され、同盟加入を快諾いただき、8名での支部発足となりました。結成会では、支部規約を確認し、支部長・藤井秀信（門前地区）、副支部長・坂東正幸（珠洲）、事務局長・山下ひな子（輪島）の各氏を選任し、会員のいない、能登町、穴水町でも会員を増やすことを申し合わせしました。11月16日、

輪島診療所「健康友の会」事務所第1回の支部会議を開催し、支部運営が開始されました。

さあこれからと決意を實踐に移そうとする年明け、2024年1月1日、「能登半島地震」が発生しました。支部員全員の住宅が被災し、避難所暮らしを余儀なくされることになりましたが、全員怪我もなく命を守ることができたことは不幸中の幸いでした。

今後、生業の復旧・復興には長い年月を要することになると思います。全国の皆さんからの救援活動や、寄せられた義援金に深く感謝いたします。苦難を乗り越え、この2月には能登町で0→2名、輪島で1名の新たな会員を迎えることができ、現在11名の支部となりました。

治安維持法が猛威を振るった100年前の時期に活動し、「共青」の初代委員長を務めた川合義虎のお父さんは能登出身の出稼ぎ労働者でした。川合義虎は、関東大震災のなか、倒壊家屋から母子を救出し、生き残った小さい子たちに食事を与えて公園で夜を過ごしました。川合はその直後に検挙され、官憲に虚殺されました（亀戸事件）。

川合は楽天的で、常に「未来は青年のもの」と語っていました。この川合とともに日本共産党創立時に党の活動に参加し、「共青」中央委員をつとめた川崎悦行も輪島市出身で、門前・総持寺の僧侶でした。

こうした歴史を持つ地の国賠同盟奥能登支部は、被災者に寄り添った活動に取り組み、平和と民主主義を発展させる役割を果たすために、苦難を乗り越え前進したいと思っています。

治安維持法と現代

2024
春季号
第47号



巻頭論文

自民党の教育政策の功罪

——国家主義と新自由主義がもたらしたもの

前川 喜平

緊急事態改憲論の問題点

——「100年」の歴史から読み解く

小沢 隆一

治安維持法犠牲者に国家賠償法の制定を求める請願の
23年度紹介議員のみなさん

自民党派閥の裏金事件について
組織的犯罪とはどういう意味か

山本 豊彦

「維新の会」をどう見るか

——その実態、本質、そして未来

小松 公生

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟 編